

第5回 天神川流域治水協議会

議事概要

(日 時) 令和3年3月22日(月) 14時00分～15時00分

(会 場) 倉吉河川国道事務所 1階会議室

(議事内容)

- (1) 開会挨拶
- (2) 規約の改正について
- (3) 流域治水プロジェクト概要について
- (4) 天神川水系流域治水プロジェクト最終とりまとめ(案)について
- (5) 意見交換
- (6) 閉会挨拶

1. 議事

(1) 開会挨拶

【倉吉河川国道事務所 事務所長】

本協議会は、激甚化する災害に対応して、天神川流域の被害を軽減させることを目的に昨年の7月に発足した。流域治水プロジェクトは、社会資本整備審議会に諮問を受けて、全国的に取組がスタートし、その後、農林水産省や林野庁にも参画していただいた。

今年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から個別説明や書面開催となった会議もあったが、検討を重ねて、氾濫をできるだけ防ぐことや被害の対象を減少させるための流域治水プロジェクト案が作成することができた。

(2) 規約の改正について

◎事務局より「中間とりまとめを行った9月以降、12月に農林水産省中国四国農政局、林野庁、森林整備センターが追加」されたことを踏まえて改定された規約について説明し、天神川流域治水協議会委員によって承認された。

(3) 流域治水プロジェクト概要について

◎事務局より流域治水プロジェクトの概要や天神川水系流域治水プロジェクトの作成経緯などの概要を説明した。

(4) 天神川水系流域治水プロジェクト最終とりまとめ（案）について

◎各機関より実施する取組について説明した。

【倉吉河川国道事務所】

「氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策」

- ・ 令和3年度を目途に国府川の6km付近にある二つの固定堰（オケ崎堰と松ノ木頭首工）を流下能力向上のために統合し、可動堰化する。堰本体は既に完成しており、この春から農業用水の取水を開始できる予定である。
- ・ 東伯郡三朝町牧地区において、整備計画で予定している残りの約600m区間の築堤を進める。倉吉市生田で掘削した土砂を利用して堤防の嵩上げを実施する。また、同時に堤防を保護するための護岸工事も並行して進める。
- ・ 昭和9年の室戸台風を契機として進めてきた砂防事業について、令和3年度に、西尾砂防堰堤、穴鴨4号砂防堰堤、野添5号砂防堰堤の整備を進める。

「被害対象を減少させる対策」

- ・ 天神川水系直轄管理区間にある7箇所の霞堤について、この構造・機能を保全していく。

「被害の軽減、早期復旧・復興のための対策」

- ・ まるごとまちごとハザードマップとして、倉吉河川国道事務所と天神川出張所に浸水深を示す標識を設置しており、住民の防災についての意識啓発を図る。

【倉吉市】

「氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策」

- ・ 平成30年台風24号において、古沢地区で床下浸水3軒や幹線道路の冠水による孤立状態寸前の状況となったことから、被害を軽減するために令和2年度より古川沢の排水ポンプ場の整備を行っている。
- ・ その他、令和元年東日本台風における複数の排水施設での浸水による稼働停止を踏まえて、上下水道局において、上井雨水ポンプ場の耐水化を実施する。令和2年度に基本計画を検討している。

「被害の軽減、早期復旧・復興のための対策」

- ・ 浸水想定区域内にある市役所庁舎や地区公民館14箇所でまるごとまちごとハザードマップの標識を設置している。来年度は、想定浸水区域内にある小中学校13カ所への設置を予定している。

【三朝町】

- ・ ハード対策については、河川関係では、国交省より牧地区において、令和2年から堤防整備に着手していただいている。砂防関係では、三朝温泉の上流域の小鹿、西尾において、砂防堰堤の整備にとりかかっていたいただいている。防災インフラの機能

確保ということで、上水道の水源等の耐水化や非常用電源の浸水想定区域外への設置を実施する。

- ・ ソフト対策の面では、新型コロナウイルス感染症に配慮した避難所の環境整備を検討する。また、避難所や福祉避難所の他に、特に、配慮が必要ないわゆる妊産婦さんや乳幼児、障害者のご家族をお持ちの方への対応として、旅館組合の加盟する宿泊施設との協定を結んでいる。
- ・ 防災学習啓発の面については、地域住民への支え愛マップの作成などにより防災教育を行い、流域治水の住民の皆さんへの知識啓発に努めていきたい。
- ・ その他、本庁において光ケーブルの事業を行っており、高速ネットワーク環境整備をしている。住民の皆さんが河川の増水状況をリアルタイムで確認できるように、今後、防災用のカメラ設置等も努めていきたい。

【湯梨浜町】

- ・ 東郷池への内水排除のために、旧東郷庁舎のあたりに龍島ポンプ場、新町川付近に新町川ポンプ場を整備する。現在、龍島ポンプ場に着手しており、令和3年度中に完成する予定である。新町川ポンプ場は、令和3年度に設計、令和4年度に完成を目指している。
- ・ まるごとまちごとハザードマップの実施についても、協議中であり、羽合地域を中心に検討している。洪水、内水、高潮の3つを想定して、防災情報提供のために設置場所など全体計画の検討しており、遅くとも令和4年度には着手していきたい。
- ・ 防災訓練や講習の開催については、住民の流域治水のような広い考え方と地域の実態に応じた避難の内容をきちんと理解してもらうことが大切であるため、防災対策官を配置して活動支援を進めている。令和2年度は新型コロナウイルスの関係で集落の活動が少なくなっているという側面もあったため、一生懸命取り組んでいきたい。
- ・ 避難先の確保については、以前から旅館組合との協定は進めておりますが、パチンコ店あたりとも実施することを検討している

【北栄町】

- ・ 防災インフラの機能確保ということで、避難路確保のための道路の嵩上げを亀谷地区や米里地区で予定している。
- ・ 由良川水系では、鳥取県の方で河床掘削や護岸整備、河口閉塞対策を実施していただいております。こういった対策を取っていただくことで町内での浸水も少なくなってくると思っている。一方で、ハード対策だけでは、住民の安全を守れないことがあるので、まるごとまちごとハザードマップも順次整備を進めていくこととしている。

- ・ 支え愛マップで地域の防災体制を作ることや要配慮者利用施設の避難確保計画作成支援も進めており、逃げるという対策が重要か思うので、ソフト対策を重点に対策を進めていきたい。

【林野庁 近畿中国森林管理局 鳥取森林管理署】

- ・ 森林管理署では、国有林を管理しており、このプロジェクトの中では、「氾濫をできるだけ防ぐ減らすための対策」として、国有林における治山施設の整備や間伐等の森林整備を実施する。
- ・ 一般的に森林が荒れているというような表現をされたりするが、要は間伐が遅れているということであるため、間伐をどんどん推進していく。間伐をすることで、山の中に水を蓄える機能が高まり、一時的に雨が降った際にも、川へどっと流れ出すのを少しでも遅らせることができる。
- ・ 治山施設については、例えば、流木を捕捉するようなダム・堰堤の設置により、流域の被害を少しでも減らしていければよいと考えている。
- ・ 毎年度少しずつではあるが計画的に実施をしていく。

【森林整備センター 鳥取水源林整備事務所】

- ・ 森林整備センターは民有林保安林において、水源林造成事業として、ダム上流域などの水源かん養上重要な奥地水源地域を対象に森林整備を行っている。
- ・ 無立木地などにおける植栽や間伐により、林地の保水能力を高め、いわゆる緑のダムの造成することで雨水を地中に蓄え、安定的に河川に流し、洪水や渇水の緩和に貢献したいと考えている。また、健全な林分が造成されることで土砂流出や土砂災害の防止等の山地保全効果を含めた森林機能の維持増進が図られる。
- ・ 天神川流域の管理森林面積は約 4000 ヘクタールで、間伐等の対策を計画的に実施し、樹木の成長や下層植生の繁茂を促すことで、土壌の浸透、土砂流失抑制効果を高度に発揮させつつ、関係機関が実施する施策と連携して治水効果を高めていきたい。

【鳥取県 県土整備部】

- ・ 昭和 62 年 10 月台風 19 号豪雨を契機に、由良川、北条川において、河道掘削、河道拡幅を計画しており、河口閉塞対策と合わせて、令和 21 年完了を目標に実施していく。
- ・ 東郷池周辺の浸水対策については、昭和 62 年 10 月台風 19 号豪雨や平成 23 年 9 月台風 12 号豪雨で浸水被害が発生しているが、これらに対して、築堤護岸、周辺道路の嵩上げによる避難路確保を湯梨浜町の内水対策と連携して実施する。
- ・ 天神川圏域については、河道掘削や樹木伐採を実施しているが、今後も令和 6 年度

までに河道掘削16箇所、樹木伐採22箇所を順次実施していく。

- ・ 企業局管理の中津ダムでは、治水協定に基づく事前放流を実施する。
- ・ ソフト対策としては、住民や河川管理者が洪水の状況を監視するために、天神川水系では既に、河川監視カメラ8箇所、水位計13箇所を設置しているが、今後も年間3カ所ずつ整備していく。

【鳥取県 危機管理局】

- ・ 危機管理局としては、ソフト関係になるが、「被害の軽減、早期復旧・復興のための対策」として支え愛マップや防災学習、あんしんトリピーメールの取組を実施している。あんしんトリピーメールについては、どの市町でも利用できるもので、ぜひ活用していただきたい。
- ・ 県下全市町村にお願いしている広域避難について、1/1000規模の水害に対しては、それぞれの市町だけでは対応できない場合に、市町の境界をまたいで移動するようなこと検討していただくように依頼をしている。各市町からこういった対応ができるか、こういった要望があるかを確認させていただいているところであるが、今後もこのような仲立ちをしていきたい。

【鳥取県 生活環境部】

- ・ 生活環境部では、鳥取県中部地区において天神川流域下水道事業を実施しているが、汚水事業である。
- ・ 今回の天神川水系流域治水プロジェクトの最終とりまとめ案に位置付けるような事業はないが、計画には賛同する。

【農林水産省 中国四国農政局】

- ・ 上流域、中流域の農地を所有している農家の方々と、氾濫原になる下流域に住んでいる都会の方々という関係の中で、上流側で頑張って取組をしても、なかなか下流域での効果が頑張った成果として見えにくく、合意形成が難しい取組が多いと考えている。田んぼダム等の取組を一生懸命支援しているが、皆様にできるだけ、農地・農村を保全することが間接的に地域の安全につながるような取組をしていきたい。難しいと承知しているが、鳥取県農林水産部等と協力しながら、できるだけ支援したい。

【鳥取県 中部総合事務所 県土整備局】

- ・ 国管理河川のバックウォーター区間における県管理河川において、河道掘削や粘り強い堤防整備等を重点的に実施している。例えば、倉吉市では、国府川のバックウォーター区間にある北谷川の河道掘削や鴨川の堤防舗装等、三朝町では、三徳川のバックウォーター区間にある加茂川の河道掘削、堤防補強を進めている。
- ・ また、北谷川の水辺の笑学校や河川のボランティア団体の協力により河川の堤防除草や伐開等を行っていただいております、こういう活動も合わせて促進していく。
- ・ 湯梨浜町では、氾濫水排除に資する対策として、東郷池で整備計画段階から町や住民と一緒に計画を練りながら景観に配慮した浸水対策（築堤護岸）を行うとともに、町の内水対策に合わせて避難路確保のための周辺道路の嵩上げを行っている。
- ・ 東郷ダムでは、湯梨浜町や農業者と連携しながら事前放流を行っている。
- ・ 北条川では、放水路の整備とか河口閉塞対策、上流の河川改修に加えて、「被害の軽減、早期復旧・復興のための対策」として、河川監視カメラを利用したAIによる河川管理の高度化を本年度から官民連携で試験的に取り組んでいるし、リアルタイム雨量・水位データを用いた洪水予測システムや避難情報提供支援のための浸水表示システムの開発も実施している。
- ・ 由良川では、現在気候変動による潮位上昇に対応した塩水遡上対策を北栄町や農業者と一緒に検討しており、由良川・北条川流域一体となった治水対策を進めていきたいと考えている。

(5) 意見交換

【湯梨浜町】

- ・ トリピーメールは、湯梨浜町も活用しており、一層の活用に務めたい。
- ・ どうやって町民の皆さんに説明するかが難しいと感じている。町版のようなものも考えて作っていかねばならないと考えており、知恵をお借りしたい。
- ・ 流域治水協議会と減災対策協議会の1本化ということも将来的にはありえるのか。

【倉吉河川国道事務所】

- ・ 町民の皆さまへの周知の仕方ですが、引き続き検討を進めさせていただき、よりよい案を作っていただきたいと考えているので、ご協力をお願いしたい。
- ・ 流域治水協議会と減災対策協議会の1本化については、2つを並行することについて負担が大きいと考えているので検討させていただく。一方で、全国的な動きとの整合もあるので、ご了承いただきたい。

【湯梨浜町】

- ・ 一本化という話ではなく、共通の項目があると思うので、窓口の一本化等ができな

いかという意味で申し上げた。2つの協議会を一本化するという主旨ではない。

【三朝町】

- ・ 災害対策や避難対策について、ひとつこなしたら、次の課題が出てきて、それを乗り越えるのに、毎年今の時期になると大変だなというのが本心である。
- ・ 流域治水という考え方は、非常に大事であり、実行しなければならないと思うが、一方で、農地関係で、田の保水機能・多面的機能について、これまで農林水産省の方で施策をうってきたが、現実的には、農地が荒れている中で、こういった話をしても地域住民としてはどうしたらよいかという話になるのが実態である。
- ・ これからどうするか考えたときに、住民の方に危機感をもっといただくために、一番身近な水害について、自分の住んでいる地域の河川はどのような状況になっているかを知っていただくことが大事だと思っており、鳥取県の事業で河川カメラの活用やAIの活用で可視化をするとあったが、住民の皆さんに危機感を抱いていただくことを考えていくことが大事なことだと考えている。
- ・ 国・県の指導、支援をいただきながら対応していきたい。

【鳥取県 中部総合事務所 県土整備局】

- ・ 国交省と同様に危機管理カメラを毎年増設しているので、地元からの意見等で必要な場所があれば、設置を検討していきたい。
- ・ AIを活用した河川管理等については、住人の皆さんに分かりやすい情報提供の仕方を試験的に実施しているところだが、本格的に利用することになれば、広げていくことも考えていきたい。

(6) 閉会挨拶

【倉吉河川国道事務所 事務所長】

天神川は、急流河川であり、流下時間が短く、水位上昇が早いということもあるが、急勾配であるということは、土砂災害の発生リスクが高いということも言える。そのため、上流の森林保全もしっかりと実施する必要がある、他の河川と比べても流域全体で考えていかなければならない河川である。

今回は、天神川水系流域治水プロジェクトが完成したが、これで終わることなく、見直しをしながら、グレードアップをしていかなければならない。気候変動は、降雨が激甚化しており、この点について今回の成果では、まだ整理されていない。これは今後、中期・中長期に向けて本省と協議をしながら見直しを図る必要がある。

流域の住民や県民に流域治水について知っていただき、安全安心が図れるように今後も努めていきたい。